

履歴書の記入について

1 学歴

高等学校卒業から記入してください。なお、博士課程において所定の単位を取得し博士の学位を授与されないまま退学した場合には、「単位取得後退学」と記入してください。

2 職歴

- ① すべての職歴を記入するとともに、職名、職位等についても明記してください。
- ② 各職歴について在職期間を明確にし、現職については「現在に至る」と記入してください。
- ③ 過去における教員組織審査において教員の資格があると認められた場合には、当該審査に係る時期、大学の名称、職位及び担当授業科目の名称（大学院にあっては、判定結果を含む。）を記入してください。
- ④ 大学教員の職歴については、主な担当授業科目を併記してください。
- ⑤ 外国の職歴に関しては、英語で記載してください。

3 学会及び社会における活動等

学会活動及び主要な社会貢献について記入してください。履歴書作成時において所属する学会の名称を記入してください。学会及び社会における活動等のうち、専攻や研究分野等に関連する事項を記入してください。教育研究上の業績を有する場合、その内容を具体的に記入してください。学会の役職、論文査読、編集委員等の活動実績を記入してください。審議会、JICA、ユネスコ等の活動実績について記入してください。

4 管理運営

組織上重要な役割（教務委員長、将来計画委員長等）や、全学・部局における各種の委員会委員等について記入してください。

5 資格

教育職員免許状を有する場合、必ず記入してください。

6 賞罰・処分歴等

学会や出版社からの表彰や職務上の表彰、懲戒処分や研究費の不正受給に係る処分等を記入してください。過去に学生・生徒・児童・幼児に対するセクシュアルハラスメントを含む性暴力等を原因として懲戒処分若しくは分限処分を受けた場合には、処分の内容及びその具体的な事由を必ず記入してください。該当事項がない場合は「なし」と記載してください。

7 科学研究費補助金、外部資金等の実績について(過去の獲得実績全て)

過去に獲得した外部資金の受け入れ実績全てについて記入してください。科研費については、その年度の受け入れ件数、金額、金額の合計を記載してください。

8 その他

経歴詐称があった場合は採用取り消しや懲戒解雇等になることがあります。また、採用後記載内容に誤りがあることが判明した場合は、採用日に遡及して給与を返納しなければならないことがあります。

履 歴 書 (記入例)

ふりがな 氏 名	おかやま あきお 岡 山 昭 夫	男	国 籍 日 本
生年月日 (年齢)	1900年12月30日 (満00歳)		
現 住 所	〒700 - 8530 電話 086 - 251 - 1111 岡山県岡山市北区津島中3 - 1 - 1 E-mail : akio@okayama-u.ac.jp		
学 位	00年00月00日 博士 (教育学) (00大学)		
学 歴			
年 月	事 項		
00年00月	00県立00高等学校 卒業		
00年00月	00大学00学部00学科 入学		
00年00月	同 上 卒業		
00年00月	00大学大学院00学研究科00専攻 (修士課程) 入学		
00年00月	同 上 修了		
00年00月	00大学大学院00学研究科00専攻 (博士後期課程) 入学		
00年00月	同 上 単位取得後退学		
職 歴			
年 月	事 項		
00年00月	00県立00高等学校 教諭 (~00年0月)		
00年00月	00大学00学部 講師 (00科教育法) (~00年0月)		
00年00月	University of 00 graduate school of 00 associate professor (00 Education Methodology) (~00年0月)		
00年00月	00大学大学院00研究科 准教授 (00科教育学研究) 現在に至る		

学会及び社会における活動等

現在所属している学会 | 日本〇〇学会， 〇〇〇〇学会

年 月	事 項
-----	-----

〇〇年〇〇月	〇〇県〇〇審議会委員（～〇〇年〇月）
--------	--------------------

管 理 運 営

〇〇年〇〇月	〇〇大学教務委員会委員（～〇〇年〇〇月）
〇〇年〇〇月	〇〇大学〇〇学部教務委員会委員長（～〇〇年〇〇月）

資 格

〇〇年〇〇月	中学校教諭1種免許状（〇〇）， 高等学校教諭1種免許状（〇〇）
〇〇年〇〇月	中学校教諭専修免許状（〇〇）， 高等学校教諭専修免許状（〇〇）

賞 罰 ・ 処 分 歴 等

〇〇年〇〇月	賞：〇〇学会〇〇賞 受賞 罰・処分歴：な し
--------	---------------------------

科学研究費補助金， 外部資金等の実績について（過去の獲得実績全て）

科 学 研 究 費 補 助 金	代 表 者 分	年 度	件 数	金 額（千円）	分 担 者 分	年 度	件 数	金 額（千円）
		2019年	1	2 0 0 0		2019年	1	1 0 0 0
2020年	1	8 0 0	2020年	2	3 0 0 0			
2021年	1	3 0 0 0	2021年	1	1 0 0 0			
2022年	1	1 0 0 0	2022年	1	5 0 0			
2023年	2	2 5 0 0						
合計		9 3 0 0	合計		5 5 0 0			

外 部 資 金	寄 付 金	受入件数	件， 金額	千円
	その他の外部資金	種別	， 受入件数	件， 金額
				千円

上記のとおり相違ありません。

2 0 2 〇 年 〇 〇 月 〇 日

氏 名

教育研究業績書の記入について

－平成30年度文部科学省大学設置申請書類作成の手引き等による(一部変更)－

1 教育上の能力に関する事項

以下の項目等に関し年月日順（過去→現在）に記入してください。

【1 教育方法の実践例】

○授業外における学習を促進する取り組み、授業内容のインターネット上での公開等

【2 作成した教科書, 教材】

○授業や研修指導等で使用する著書, 教材等（後の「著書, 学術論文」との重複記入も可。その場合, 本欄に「(再掲)」と記載）

【3 教育上の能力に関する大学等の評価】

- 採用決定の際等における評価内容
- 各大学における自己点検・評価での評価結果
- 学生による授業評価, 教員による相互評価等の結果

【4 実務の経験を有する者についての特記事項】

→書ききれない場合は, 様式「04. 実務の経験に関する事項」へ記入してください

- 大学から受け入れた実習生等に対する指導
- 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の専門的な実務に関する教育・研修
- 大学の公開講座や社会教育講座における講師, シンポジウムにおける講演等

【5 その他】

- 担当授業科目, 卒業研究・修士論文・博士論文の指導, 教職実践専攻における学生指導（過去3年間程度を記入してください）
- 学校教育現場の経験・指導実績等に係る教育業績
- 大学教育に関する団体等における活動, 教育実績に対する表彰等
- 国家試験問題の作成等

2 職務上の実績に関する事項

以下の項目等に関し年月日順（過去→現在）に記入してください。

【1 資格, 免許】

○教員, 医師, 歯科医師, 薬剤師, 看護師等の資格で担当予定授業科目に関連するもの

【2 特許等】

○特許, 実用新案等で担当予定授業科目に関連するもの

【3 実務の経験を有する者についての特記事項】

→書ききれない場合は, 様式「04. 実務の経験に関する事項」へ記入してください

- 大学等（海外を含む）との共同研究
- 訴訟・審判・監査・与信・企業提携・研究開発等の担当実績
- 各種審議会・行政委員会・各種ADR等の委員
- 行政機関における調査官等の官職
- 研究会・ワークショップ等での報告や症例発表
- 調査研究, 留学, 海外事情調査等
- 上記を裏付ける報告書, 手引書, マニュアル, 雑誌等

3 著書・学術論文等に関する事項

発表の年月順（過去→現在）に記入してください。なお、書類の作成時において未公刊・未発表のものは記入できません。ただし、著書で校正刷がある場合や、学術論文で掲載予定であることを証明する書類（受理証明書等）がある場合は、その旨を記載の上、記入してもかまいません。

【著書、学術論文等の名称】の項

ア 研究等に関連する主要な業績を、「著書」、「学術論文」、「その他」の項目に適切に区分し、各業績を発表順に、通し番号を付して記入してください。

イ 「著書」については、書名を記入してください。

ウ 「学術論文」については、国際学術雑誌、学会機関誌、大学紀要等に学術論文として発表したものの題名を記入してください。学位論文については、「学術論文」の区分に記入し、その旨を明記してください。

エ 「その他」については、「報告書」、「学会発表」等、適宜区分の上、題名等を記入してください。

カ 査読付き学会誌論文については、番号に下線を付すとともに、題名の後に「(査読付)」と記載してください。

【単著・共著】の項

当該著書等に記載された著作者が単独である場合には「単著」、著作者が複数いる場合には、監修、編集、編著、共著、部分執筆等の関わり方によらず、「共著」と記入してください。なお、学会発表の場合も、便宜的に、単独発表は「単著」、共同発表は「共著」と記入してください。

【国際共著・Q1ジャーナル】の項

国際共著に該当する場合には「国際」、Q1ジャーナルに該当する場合には「Q1」と記入してください。

【発行又は発表の年月】の項

当該著書等の発行又は発表の年月を記入してください。

【発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称】の項

ア 著書については、発行所を記入してください。

イ 学術論文等については、発表雑誌等の名称、巻・号、掲載ページ等を明記してください。

ウ 学会発表等の場合には、学会大会名（回数を含む）を明記するとともに、論文集等がある場合は、掲載ページを記入してください。

【概要】の項

ア 当該著書等の概要を200字程度で記入してください。

イ 著書で単著の場合は、末尾にページ数を記入してください。

ウ 当該著書等が共著の場合、以下の①～③により、共著者、本人の分担した箇所、寄与等を明記してください（次頁以降の記入例を参照のこと）。

① 末尾に、本人の氏名（下線を付すこと。）を含め著作者全員の氏名（多数にわたる場合は主要な共著者の氏名）を当該著書等に記載された順に記入してください。

② 著書（および翻訳、報告書等の著書に準ずるものを含む。）で共著の場合、冒頭部分に、本人の分担部分の章・節、題名、掲載ページを記入してください。共同研究により本人の担当執筆ページ番号が記載できない場合に限り、掲載ページ番号の代わりに「共同研究により抽出不可」と記載した上で、当該著書等（学術論文の場合は当該論文）の執筆箇所に係る役割及び執筆箇所の内容を具体的に記載すること。

教育研究業績書

年 月 日

氏名

教育上の能力に関する事項	年 月	概 要
1 教育方法の実践例	2018年1-2学期	「〇〇論」において、予習用の資料をMoodleに用意し、授業外における学習を促進した。 <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 著書・学術論文としても掲載している場合には（再掲）と記入してください。 </div>
2 作成した教科書, 教材	2015年10月	「〇〇〇〇」（医学書院）（再掲）
3 教育上の能力に関する大学等の評価	2020年1-2学期 2017年	「〇〇〇〇」（123名受講） 授業アンケート 4.3 「〇〇〇〇」（18名受講） 授業アンケート 4.9 教員活動評価 総合評価 3
4 実務の経験を有する者についての特記事項	2016年7月	岡山大学公開講座「〇〇〇〇」（45名受講）
5 その他 (担当授業科目) (卒業研究・修士論文・博士論文の指導) (教職実践専攻における指導) (学校教育現場の経験・指導実績)	2016年から 2020年 2019年 2018年	前期(1-2学期) 「〇〇〇〇」, 「〇〇〇〇」, 「〇〇〇〇」, 「〇〇〇〇」 後期(3-4学期) 「〇〇〇〇」, 「〇〇〇〇」, 「〇〇〇〇」, 「〇〇〇〇」 卒業研究指導 4名, 修士論文指導 主1名, 副1名 博士論文指導 主1名 卒業研究指導 3名, 修士論文指導 主1名 博士論文指導 主1名 卒業研究指導 4名, 修士論文指導 主1名, 副1名 博士論文指導 主1名
職務上の実績に関する事項	年 月	概 要
1 資格, 免許	2002年3月	中学校教諭一種免許状(国語(平成9 中一第〇〇号 岡山県教育委員会))
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

「3 著書・学術論文等に関する事項」の記入例

頁番号が入ります。教育研究業績書の様式では、事前にヘッダーに含めており、頁数も自動的に入ります。

タイトル行を繰り返す設定にしています。

No. ●●●

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	国際共著・Q1ジャーナル	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p><著書></p> <p>1 再帰的事象の認識とその発達に関する心理学的研究</p>	単著		2007年 7月	岡山大出版会	われわれのまわりにさまざまな形で存在する再帰的事象を取り上げ、こうした事象を認識できることが人間らしい高度で豊かな知性の基盤のひとつとなっていることを解き明かそうとした。幼児期から児童期にかけての社会性の発達に不可欠な「他者の心の理解」に関する「心の理論」研究に着目し、その意義や問題を指摘しつつ、実証的なデータを示した。(255頁)
<p>2 学習心理学の理論と実践</p>	共著		2008年 4月	大倉書店	<p>「学習の理論Ⅰ」(pp.10-25)、「学習の理論Ⅱ」(pp.26-58)及び「○○○○○」(pp.59-82)を執筆</p>
<p>3 学校教育心理学 ー実践の理論ー</p>	共著		2008年 5月	西大路書房	<p>共著者：○○○○，○○○○</p> <p>「発達の理論 ー発達を見つめる枠組み」(pp.117-131)を執筆</p>
<p>4 認知心理学者、大学教育への挑戦</p>	共著		2008年10月	オオニシヤ出版	<p>共著者：○○○○，○○○○，○○○○，他9名</p> <p>「リテラシー教育におけるメタ認知の重要性」(pp.217-242)を執筆</p> <p>編者：○○○○</p> <p>共著者：○○○○，○○○○，○○○○，他13名</p>
<p><学術論文></p> <p>1 子どもにおける再帰的な心的状態の理解 (査読付)</p>	単著		2005年 1月	『教育心理学研究』第50巻 第1号 pp. 43-53. (日本教育心理学会)	<p>児童(小学1~6年生)を対象に、子どもが社会性を理解する上で不可欠な「再帰的な心的状態の理解」がいつごろ可能になるのかを、「心の理論」研究の二次的信念課題によって検討した。その結果、小学1年生頃から二次的信念を理解できることが明確になり、再帰的な心的状態の理解は、児童期における社会性の理解にとって、重要な発達課題であることが明らかになった。</p>

各行の間隔は、記載分量にあわせて、適宜、調整して下さい。

共著のうち、「山岡太郎・森要一著」の類のものの記入例

ご自身のお名前に下線を付して下さい。

共著(分担執筆)で、分担部分を一人で執筆した場合の記入例

共著(分担執筆)で、分担部分を複数名で執筆した場合の記入例

ご自身の姓

査読付き学会誌論文には、下線を付して下さい。また、末尾に(査読付)と記入してください。

